

3回目となる猟友会との ニホンジカ等捕獲協定の締結

利根沼田森林管理署



利根沼田署では地元猟友会と連携し、国有林野内でのニホンジカ等被害対策を効果的に実施するための捕獲協定を11月2日に締結しました。これは、平成26年度に「群馬県利根沼田地域鳥獣被害対策推進会議」が設立され、当署と猟友会が構成員になったことから、「推進会議」の設置目的である「利根沼田地域の関係機関等の連携を図り、被害対策を効率的に推進するため」の一つの方策として実施しているものです。

特に、当署においては管内の森林面積の約64%を国有林が占めるため、国有林野内で効率的に捕獲することが地域の農林業被害を軽減するため有効です。

初めて取り組んだ26年度から、国有林道ゲートの貸付要件を緩和した2年目の昨年度は、ニホンジカ232頭、イノシシ129頭と捕獲頭数が大幅に増加しました。

今年度も無事故で狩猟期を終えることを重点に、狩猟期間が昨年の2月15日から2月末(ニホンジカ、イノシシに限る。)に延長されましたので、昨年以上の成果を期待しています。

国有林モニター会議を開催

総務企画部 企画調整課

関東森林管理局では、国有林野事業をご理解いただくとともに、国有林野の管理経営に役立てていくため、一般公募による70名の方に国有林モニターを依頼しています。

国有林モニターの皆様には、広報誌や森林・林業に関する資料を毎月お送りするとともに、年2回のアンケートや意見交換などを行う国有林モニター会議を実施しています。

今年度のモニター会議は9月27日に茨城森林管理署管内で開催し、16名の国有林モニターの方々にご参加

いただきました。

当日は、林業・木材産業について実際に現場を見て理解を深めていただくため、国有林内での丸太生産の様子や、多くの木材関連施設が立地している宮の郷工業団地内の製材工場、木質バイオマス発電所、原木市場を視察し、その後、意見交換を行いました。

国有林モニターの皆様からは、次のようなご意見をいただきました。
・伐採から製材までの一連の流れを視察でき、大変良い機会でした。
・林地残材などを利用した木質バイオマス発電は様々な課題をクリアし、資源の循環利用を推進してほしい。
いただきましたご意見は、今後の国有林事業に活かせるよう取り組んでまいります。



木質バイオマス発電所の視察

今月の表紙 「山の日」イベント

福島森林管理署では、平成26年度から、福島市土湯温泉近くの国有林内森林公園「きぼっこ森」(「きぼっこ」とは、「こけし」のことです。)において樹木博士への認定試験を開催しています。

今年、一般60名の家族を公募し、今年から祝日となった「山の日」の8月11日に「親子『子ども樹木博士』チャレンジ2016」と銘打って、樹木博士のイベントを行いました。

試験木には、遊歩道沿いの樹皮や葉・使われる用途・匂いなど特徴のある樹木15種を選定し、試験前の勉強会(写真左上)では若手職員が判りやすい解説に苦心しながら担当しました。試験(写真右上)では15名が満点となり、参加者全員に当署長から樹木博士に認定する賞状を授与して終了(写真下)しました。



世界遺産の価値を未来につなげるために

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島が平成23年6月に世界自然遺産に登録され、今年で5周年になります。

この5年間、父島では外来種のプラナリアのまん延により固有種の陸産貝類（カタツムリの仲間）が大幅に減少したり、兄島では昆虫類を捕食してしまうグリーンアノール（外来種のトカゲ）の侵入が確認されるなど、世界遺産の価値を脅かす様々な出来事が起きました。

こうした問題に対し、林野庁、環境省、東京都、小笠原村で構成する小笠原諸島世界遺産事務局では、外来種駆除を中心とした各種の対策を進めています。

しかしながら、地域からは「行政が無人島で何をやっているかわからない」などの声も聞かれ、島民への



国内希少種：
キノボリカタマイマイ



兄島の台地上、過去の駆除地にモクマオウの稚樹が発生



高校生が手鋸を使ってモクマオウを伐採
伐採後は、スタッフが切り株に萌芽を防ぐ除草剤を塗布

丁寧な説明が求められると同時に、島の将来を担う子供たちに対して、小笠原の自然と今後の在り方について考えてもらう機会の提供などが大切になってきています。

小笠原諸島森林生態系保全センターでは、学校と連携し、生徒たちに国有林内で外来植物の駆除作業を体験してもらい、森林生態系の保全に関する理解を深めてもらうための取組を進めています。

11月4日には、都立小笠原高校の1年生が「奉仕の時間」として、兄島で過去に当センターが外来植物のモクマオウを駆除した場所において、新たに発生した稚樹や萌芽の伐採作業を行いました。

今回は、環境省小笠原自然保護官事務所と小笠原村役場環境課とも協力し、駆除木を活用したグリーンアノールの捕獲用資材の製作や、「将来の小笠原」をテーマにしたディスプレイ等の時間も取り入れられました。



高校での事前学習。「将来の小笠原」をテーマに、それぞれの夢や考えを発表してもらう

生徒たちからは「自然を守るには僕ら若い世代の力が必要だ！」「外来種にも命がある。駆除するだけではなく利用してあげるべき」など、様々な意見が出され、多角的な視点から小笠原の自然について考えてもらう機会となりました。

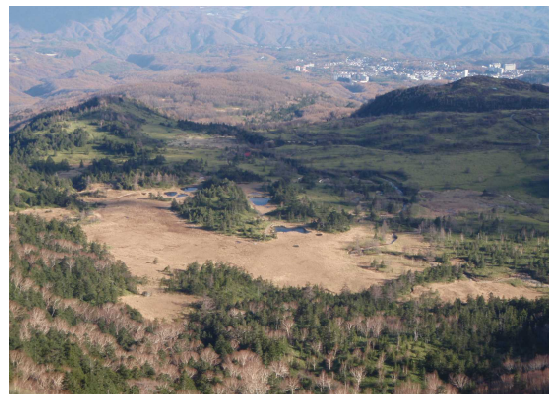
今年度はこの他にも、小笠原中学校を対象に父島の東平サンクチュアリーでキバンジロウの駆除を、母島の小中学校を対象に平島でジュズサングの駆除などを実施するとともに、内地からも、東京農業大学ボランティア部の活動や、筑波大学大学院の現地演習などを受入れ、島内外に小笠原の現状と対策について知ってもらう取組を行っています。

森づくり最前線

吾妻森林管理署 草津森林事務所 地域統括森林官 柳澤 二三雄



冬の湯釜



芳ヶ平湿原

私の勤務する草津森林事務所は、群馬県北西部の長野県境に位置し、日本で一番高い国道最高地点があります。

また、日本百名山の草津白根山、現在は火山活動で1km圏内立ち入り禁止になっている白根山の湯釜、そしてなんとと言っても草津温泉は、全国温泉ランキング1位になっています。

中之条町に位置する芳ヶ平湿地群は、平成27年5月に草津白根山湯釜、芳ヶ平湿原、大平湿原、平兵衛池、チャツボミゴケ公園等がラムサール条約に登録され、ワタスゲをはじめとする様々な高山植物、特別天然記念物のニホンカモシカ、日本固有種であるモリアオガエル、群馬県天

然記念物のチャツボミゴケの群生地等、湿地の貴重な生態系を保全・再生するとともに、そこから得られる恵みを賢明な利用として活用し、交流・学習を通して広めることを目的とされました。

当事務所管内には、全国に先駆け、自然景観に優れ、野外スポーツに適した国有林を活用する森林空間総合利用整備事業（ヒューマン・グリーン・プラン）を実施し、民間等によって整備された草津スキー場や草津高原ゴルフ場の野外スポーツ施設等などの森林総合利用施設は、地域の観光産業等にも大きく寄与しています。

また、森林環境教育の一環として、地元中学生による高山植物の女王「コマクサ」の復元活動が、昭和55

年春から地域一体となって展開され、平成4年に見事本白根山の復元完了宣言がなされ、現在は中学生による保護活動が継続されています。

草津温泉の湯元となる万代鉱温泉湧出地は、昭和41年に鉱業用地として貸付し、採鉱のための坑道を掘削中に、地中から温度94度の温泉が毎分約6200リットル湧き出たのがきっかけで、草津町と温泉利用協定を締結して、温泉を販売しております。

草津森林事務所は、草津管内約6400鈔長野原管内約2300鈔の国有林を管理していますが、草津管内は、森林空間利用タイプのレクリエーションの森が多く、カラマツの林と広葉樹を主体とする自然維持林が大部分を占めています。



高山植物の女王「コマクサ」



万代鉱温泉湧出地

長野原管内での主な事業は、八ッ場ダム関連事業が多く、急ピッチに行われていることから、新規使用承認等に追われています。

地域統括森林官として2年目になりましたが、より一層地域と共に、開かれた国有林の実現に向けて取り組んで行きたいと思えます。

発行所 関東森林管理局
編集総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393